
「ロボット支援副腎摘除の初期治療成績」

に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2023年11月1日から2024年8月31日までの間に埼玉医科大学総合医療センターでロボット支援副腎摘除術を受けた15名の方を対象としております。

2. 研究の目的

これまで副腎摘除術は、腹腔鏡手術で行われるのが通常でしたが、2022年4月からロボット支援副腎摘除術（robotic-assisted adrenalectomy: RAA）が保険適応となりました。当院では2023年11月よりRAAを開始しております。RAAは腹腔鏡手術とほぼ同様の手術手技で実施が可能で、腹腔鏡と比較して入院期間短縮、出血量減少などの利点が報告されています（Brandaoら Eur Urol 2014）。本研究の目的は、RAAの初期手術成績を集計し検討することで、適切に導入されたかを検証することです。このデータは、今後RAAを当院で受ける患者さんのために意義のあるものになります。

3. 研究期間

病院長の許可後～西暦2025年 3月 31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年10月4日

開始予定日以降も研究への情報の利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

利用する情報は、検査データ、診療記録になります。具体的には、以下の項目になります。手術日、年齢、性別、ECOG-PS、ASA-PS、術前合併症、術前ホルモン検査値（カテコールアミン3分画、コルチゾール、アルドステロン、レニン活性、ACTH、DHEA-S）、術前診断（褐色細胞腫、クッシング症候群、サブクリニカルクッシング症候群、原発性アルドステロン症、非機能性腺腫）、術者名、手術時間、コンソール時間、出血量、輸血の有無、術後合併症、病理結果、術後入院日数、術前後の血液生化学所見、術前後の画像診断所見（CT、MRI、PET）

2. 試料・情報の取得方法

診療記録（電子カルテ）を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究機関の名称：埼玉医科大学総合医療センター

研究責任者：泌尿器科 医師 准教授 竹下英毅

研究実施者：

泌尿器科	医師	教授	矢野晶大
泌尿器科	医師	准教授	岡田洋平
泌尿器科	医師	講師	北山沙知
泌尿器科	医師	助教	永本将一
泌尿器科	医師	助教	立花康次郎
泌尿器科	医師	助教	新井昌弘
泌尿器科	医師	助教	田中佑宜
泌尿器科	医師	助教	鄭 善仁
泌尿器科	医師	助教	藤井健太
泌尿器科	医師	助教	横田和樹

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

5. 試料・情報の提供について

本研究は本院単独の臨床研究であり、試料および情報が外部に持ち出されることはありません。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができますので、以下の連絡先までご連絡ください。

埼玉医科大学総合医療センター 泌尿器科 竹下英毅

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3673（泌尿器科医局、日祝日を除く 9：00～17：00）

○研究課題名：ロボット支援副腎摘除の初期治療成績

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 泌尿器科 竹下英毅